

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

4) ヒラメ・マコガレイ・マガレイ・ムシガレイ・マダイ・ハタハタ（日本海海域）

（抄録）

伊藤欣吾

目 的

資源管理後の漁獲動向をモニタリングする。

内 容

ヒラメ

青森県日本海海域のヒラメの年間漁獲量（水試調べ）は、1990年以降増加し、1996年以降は増減を繰り返しながら横ばい傾向であった。2002年のヒラメの漁獲量は113トンで前年比80%、過去5ヵ年比80%であった。銘柄別漁獲割合は、1997年～2000年はほぼ同様の銘柄割合を示していたが、2001年に銘柄「小」と「小小」の割合が増加したものの、2002年は再び1997年～2000年の銘柄割合に類似した。2002年の年間漁獲金額は1億8,628万円で前年比78%、過去5ヵ年比66%であった。銘柄「大」の単価は2,296円/kgで前年比94%、過去5ヵ年比86%であった。

2002年のヒラメ稚魚分布密度は前年より著しく減少し、過去5ヵ年では最低であった。

マコガレイ

青森県日本海海域のマコガレイ（大戸瀬漁協と風合瀬漁協の銘柄「小カレイ」を除く）の年間漁獲量は統計調査（水試調べ）を開始した1993年以降では、1994年に大きく減少し、1998年まで横ばい傾向、1999年に大きく減少し、その後横ばい傾向、2002年は38.2トンで前年比89%に減少した。年間漁獲金額は3,004万円で前年比81%であった。鱈ヶ沢漁協沖合底びき網漁業における銘柄別漁獲量は、1993年以降各年とも銘柄「大」の割合が多いが、1997年と2001年に銘柄「中」の割合が比較的多くなっていた。また、その銘柄別単価は、銘柄「中」が最も高く、1993年以降高低を繰り返しながらも低下傾向であり、2002年は1993年以降最低を記録した。

マガレイ

青森県日本海海域のマガレイ（大戸瀬漁協と風合瀬漁協の銘柄「小カレイ」を全てマガレイと仮定）の年間漁獲量は統計調査（水試調べ）を開始した1993年以降減少傾向にある。2002年は40トンで前年比112%とやや増加したものの、過去5ヵ年比79%であった。年間漁獲金額は2,943万円で前年比73%、過去5ヵ年比56%であった。鱈ヶ沢漁協の沖合底びき網漁業における銘柄別漁獲量は、銘柄「小」「中」の割合が1995年、1996年、2000年、2001年に著しく少なかった。その銘柄別単価は、1993年以降高低を繰り返しながらも低下傾向であり、2002年は1993年以降最低を記録した。

発表誌：平成14年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書、平成15年、青森県

ムシガレイ

青森県日本海海域のムシガレイ（大戸瀬漁協と風合瀬漁協の銘柄「小カレイ」を除く）の年間漁獲量は統計調査（水試調べ）を開始した1993年以降増加し、1997年以降は横ばい傾向、2002年は23.6トンで前年比138%に増加した。年間漁獲金額は2,360万円で前年比115%であった。深浦漁協における銘柄別漁獲量は、1997年以降全銘柄が増加した。また、その銘柄別単価は、1993年以降低下傾向が続き、2002年は1993年以降最低を記録した。2002年4月の大戸瀬漁協におけるムシガレイの全長組成は160～390mmの範囲で250mm前後にモードがあった。小型は雄、大型は雌の割合が高くなっていた。雄の個体数が全体の70%を占めていた。

マダイ

青森県日本海海域のマダイ（チダイ含む）の年間漁獲量は統計調査（水試調べ）を開始した1997年以降増加し、2002年は394トンで前年比186%、過去5ヵ年比225%であった。年間漁獲金額は2億8,668万円で前年比161%、過去5ヵ年比188%であった。大戸瀬漁協における銘柄別漁獲割合は統計開始の1992年以降、大型の割合が高まる傾向を示した。また、その銘柄別単価は、1992年以降では各年とも銘柄「中」が最も高く、年々低下傾向を示した。2002年の銘柄「中」の単価は1,189円/kgで前年比89%、過去5ヵ年比74%であった。

ハタハタ

青森県日本海海域におけるハタハタの年間漁獲量（水試調べ）は1965～1975年には500～1,800トンで推移していたが、1978年以降減少し、20トン以下に低迷した。しかし、1998年の漁獲量は37トンとやや回復し、その後は増減があるものの増加傾向を示し、2002年は245トンと前年比349%、過去5ヵ年比576%に大幅に増加した。年間漁獲金額は6,937万円で前年比126%、過去5ヵ年比168%に増加した。深浦漁協の沖合底びき網漁業による銘柄別漁獲量は、統計調査を開始した1997年以降では、1998年以降小型の割合が年々多くなっていた。また、その単価は低下傾向にあった。